



Title	国宝 称名寺聖教『西域記伝抄』翻刻と解題(2)
Author(s)	蒲, 嫄艶
Citation	詞林. 2025, 78, p. 37-65
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102896
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

国宝 称名寺聖教『西域記伝抄』翻刻と解題(2)

蒲 姣艶

【凡例】

一、本資料は、称名寺所蔵、神奈川県立金沢文庫管理 国宝
称名寺聖教『西域記伝抄』〔二七三函〇〇一号〕を翻刻した
ものである。

一、翻字にあたっては、削除・改訂などは原則として一切行
わず、改行・空白なども原文通りにし、できるだけ資料を忠
実に活字化した。旧字・俗字・略字また異体字は通常の漢字
に改め、常用漢字を用いた。

一、虫損・汚損による不明箇所は、その字数に応じて、□□
をもつて示した。文脈から推測できるものをその文字の右傍
に（か）で附記した。判読不能の箇所は■にした。
一、推敲・補訂を重ねたその痕跡を残すため、見せ消ちまた
抹消箇所は、文字の右に（ク）を付した。

一、表紙の欠失により、題名不詳のものは、（仮題）とした。
落丁の場合は、（全欠）（中欠）（後欠）と記し、頁ごとに
を付した。

一、仮名および訓点などは、原則として原文の表記通りにし
たが、古様の仮名は通常の仮名に、また「フ」は「こと」に、
「メ」は「シテ」に改めた。

一、原文に句読点がなく、それを私に補つた。

一、踊り字「ミ」を「タ」にした。また本文にわずかにある
声点や合点については、印刷の都合で略した。なお中央に付
される返り点は印刷の都合で左側に統一した。

一、本文に補入記号のある箇所に、補入字句を（ ）で括つ
て記した。

一、「ヰ」・「炎」・「姿」などは菩薩・涅槃・娑婆に改めた。

一、便宜的に、表紙の左側に表丁・法量・資料番号を記した。

一、文中の割注部分をへへに入れ、／で改行を示した。

一、異本による書き込みはその文字の右に（イ）で記した。

【翻刻二】

三学衆徒各供祖師墓事

烏波毘多幾事

獅猴以密供仏事

第四之一

西記 第四

二之一

粘葉裝 十五・二糰×十一・三糰 【二七三函〇〇一号〇九】

〔見返し〕

秣菟羅國 中印度境

有二三窣堵波一、並無憂王所建也。

過去四仏遺跡甚多。釈迦如來

諸聖弟子遺身窣堵波、謂

舍利子〈舍利弗〉、沒特伽羅子〈目乾〉

布刺拏梅呬麗衍尼弗呬

羅〈滿慈〉、優波釐、阿難、羅怙羅

〈羅睺羅〉、曼殊室利〈妙吉祥〉、諸菩

薩窣堵波等、每歲三長及

月六齋、僧徒相競、率其同

好、齋持供具、多營奇玩、隨

其所宗、而致像設。阿毘達磨衆

供養舍利子、習定之徒供養沒

特伽羅子、誦持經者供養滿

慈子、學毘奈耶、衆供養優波

釐、諸苾芻尼供養阿難、未

受具戒者供養羅怙羅、其
学大乘者供養諸菩薩。是
日也、諸窣堵波競修供養、
珠旛布列、宝蓋駢羅、香煙
若雲、花散。如雨、蔽虧日月、震
蕩谿谷。國王大臣、修善為務。
城東行五六里、(至)一山伽藍、疏
崖為室、因谷為門、尊者烏波
鞠多、(唐言近護)之所建也。其中則有
如來指爪窣堵波。

余尺、広三十余尺、四寸細籌、
填積其内。尊者近護說法、
化導夫妻、俱証羅漢果者、
乃下一籌、異室別族、雖証

不記。其傍有率都婆、在
昔如來行經此處、時有獼
猴持蜜奉佛、々令和水、
普遍大衆。獼猴喜躍、墮
坑而死。乘茲福力、得生人中。

(10)

世親幼稚事
聞衆賢來世親逃去事
衆賢捨命事世親遣事

西記第四

削大五舌五六十
年事

無垢友論師

二之二了

粘葉裝 十五・三糰×十一・五糰
〔二七三函〇〇一号十〇〕

德光伽藍北三四里、有大
伽藍、僧徒二百余人、並學二
小乘法教、是衆賢論師寿
終之處。論師迦濕弥羅國
人也。聰敏博達、幼伝雅譽、
特深研究、說一切有部毘
婆沙論。時有世親菩薩、葉
心玄道、求解言外、破毘婆沙
師所執、作阿毘達磨俱舍
論。辭義善巧、理致清高。ナリ
衆賢循覽、遂有心焉、於是
沈研鑽極。十有二歲、作二
俱舍論、二万五千頌、凡八
万言矣。所謂言深致遠、窮
幽洞、微告二門人曰、「以
我逸

才、持我正論、逐斥世親、挫
其鋒銳、無令三老叟、獨擅二
名。於是學徒四三俊彥、持
所作論、推訪世親。是時在
磔迦國、奢羯羅。

城。遠傳聲聞、衆賢當至。(世)親
聞已、即治行裝。門人懷疑、前
進諫曰、「大師德高先哲、名
擅當時、遠邇學徒、莫不云
謝謝(也)。今聞衆賢、一何惶遽。必
有レ所レ下、我曹厚レ顔。」世親曰、「吾
今遠遊、非避此子。顧此國
中無無復鑑達。衆賢後進也、
詭弁若流。我衰髦矣、莫
能持論、欲以一言頽其

異執^ヲ、引至^{シテ}中印度^ニ、對^テ諸髦^ヲ。
 彦^ニ察^シ乎真偽^ヲ、詳^ニ乎得失^ヲ。尋^テ
 即命侶負^レ笈^ヲ遠遊[。]衆賢論[。]
 師常後^ニ一日^ニ至^ル此伽藍^ニ、忽^ニ
 學^ユ氣衰^ト。於^レ是裁^{シテ}書謝謝^{シテ}世[。]
 遺文^ヲ斯^レ幸矣[。]死^{スモソシ}何悔哉^ヤ。」
 抑^ニ揚^{シテ}至理^ヲ。不^{シテ}毀^レ所執^ヲ、得^レ存^ニ
 此論^一扶^{タスケ}正宗學^ヲ。智小^{ニシテ}謀^{コトナリ}大^{アリ}。
 死其將至^{レニ}。菩薩宣暢微言^ヲ、
 輒^ラ不量力^ヲ、沈究弥^ヲ、作^{サク}為^テ
 伝^テ其宗學^ヲ、各擅^ル專門^ヲ、党^{シテ}
 同道^ヲ、疾^ニ異部^ヲ。愚以^ニ寡昧^ヲ、猥^ミ。
 承^ク伝賀^ヲ、覽^ル所製阿毘達磨[。]
 倶舍論^一、破^{セリ}毘婆沙師大義^ヲ。

於^レ是歷^{アマク}選^テ門人有辭弁者^ヲ、
 而告之曰[。]「吾誠後學^{ニシテ}シ^シシ^シノク
 先達^ヲ、命^{ナリ}也如何[。]當從^{シテ}斯沒[。]
 汝持^ニ是書及所製論[、]謝^{シテ}彼菩薩^ニ、
 代^レ我悔過[。]」。授^{ハルコト}辭^ヲ。
 適畢[、]奄爾^ニ云亡[。]門人奉^レ書、
 至^{シテ}世親所^{ノセトニ}而致^レ辭曰[。]「我師衆
 賢^已、已捨^ニ寿命^ヲ、遺^{シテ}言^ヲ致^{シテ}書^ヲ、責^{シテ}
 躬謝^{リス}咎^ヲ、不^{ルコト}墜^ヘ其名^ヲ、非^レ所敢
 望^ム。世親菩薩質書閱^レ論[、]沈[。]

吟^{スルコト}久之[、]謂^テ門人^ニ曰[。]「衆賢論師
 聰敏^{後進}、理雖^レ不足^ヲ、辭乃^ハ
 有^レ余[。]我今欲破^ニ衆賢之論、
 若指^{シカ}諸掌^一。顧^以垂終^ノ之託[、]タク^ヲ
 重^ス其知難之辭[、]苟^{クモヨテ}緣^ニ大義^一、

乘教者、仏法之中究竟ノナリ

也。名昧浪絶、理致幽玄。○ナリ

愚昧、駁斥、先進、業報皎然、ナリ

滅レ、身宜矣。敢告學人、厥鑑

斯在。各慎爾志、無レ得レ、懷レ

疑。大地為震、命遂終焉。

當其死、地陷為レ坑。同

侶焚レ屍、收レ骸旌建。時有

羅漢見而歎曰、「惜哉。菩

苦哉。今此論師任情執

見、毀惡大乘、墮無間獄。○

(11)

四之一

曲女城事

戒日大王事

戒日繼國位祈觀音事

涅槃之後第四百年、応期撫運、
王風遠被、殊俗内附、機務余

粘葉裝 十五・三編×十一・六編【二七三函〇〇一号十二】

西域記第五 勘文

於恒河岸戒日王行無遮会事

西域記第五

戒日於行宮之台燒宮立誓滅火事

諸外道欲死戒日大王事

レ虛履空、來至此國、山棲谷隱。
時無憂王聞而悔懼、躬來謝
過、請還本国。彼諸羅漢確不
從命。無憂王為羅漢一建五百
僧伽藍、總以此國、持施衆僧。
健馱邏國迦膩色迦王、以如來

暇、毎習二仏經一、日請二僧一、入レ宮ニ
説法、而諸異議部執不同。王
用深疑テ、無以去レ惑。時脇尊者
曰、「如來去レ世、歲月逾邈。弟子ノ
部執、師資異論、各拋一聞見一、共
為矛盾」。時王聞已、甚用感傷、
悲歎良久、謂尊者曰、「猥レカワシクシテ
福一、聿遵前緒、去レ聖雖遠、猶為
有幸。敢レ唐鄙、紹隆法教」。
隨其部執、具積二三藏」。脇尊者
者曰、「大王宿殖善本、多資
福祐、留情仏法、是所レ願也」。
王乃宣二令遠近、召集聖哲一。
於是四方輻湊、万里星馳、
英賢畢萃、睿聖咸集。七日ノ

之中、四事供養。既欲法議、
恐其誼雜。王乃具レ懷白諸僧
曰、「証シタラムハトミテ、具結縛一
者還」。如レ此尚衆。又重宣レ令、「無
學人住。有學人還」。猶復繁多。
多。又更下レ令、「具三明一備二六通一
者住、自余(各)還」。然尚繁多。又
更下レ令、「其有三内窮三藏、外達二
五明者住、自余各還」。於是得
四百九十九人。王欲於本国、苦
其暑湿、又欲就王舍城大迦葉波
等議曰、「不可。彼多外道、異
論糾紛。酬對不暇、何功。作レ論」。

衆会之心、屬意此國。此國四周山カタマタリ、薬叉守衛、土地膏腴、物產豊盛、賢聖之所集往、靈仙之所遊止。衆議斯在、僉曰、「允ナリヘリ。」其王是時与諸羅漢自レ
彼而至、建立伽藍、結集三藏、欲作毘婆沙論。是時尊者世友戶外納衣、諸阿羅漢謂世友曰、「結使未除、諍議乖謬、宜遠跡、勿居此也。」世友曰、「諸賢於法無疑、代仏施化、不敏、粗達微言、三藏玄文、五明至理、頗亦沈研、得其趣矣。」諸羅漢曰、「言不可以若、是汝宜方集大義、欲製正論。我雖不敏、粗達微言、三藏玄文、五明至理、頗亦沈研、得其趣矣。」諸羅漢曰、「言不可以若、是汝宜

屏居^{レヲテイ}、疾証^ス無学^ヲ、已^{ニシテ}而會^{セハ}此^シ時未晚^{タラソカラ}也[。]世友曰、「我爾ニ無學^ヲ、
其猶^レ漢睡^ノ志求^ニ、不趨^{ハシラ}小徑^{ケイニ}、
必當^ニ證^ス得無^ノ學聖果^ヲ。」時諸^ヲ墜^{ラチニ}于^ニ地^ニ、
羅漢^ヲ重訶^{シテシテ}之曰、「增上慢人^{トイ}、
斯^ヲ之謂^{ナリ}也。無學果者^{ノハ}、諸^ヲ
仏所讚^{メ玉フ}、宜^{クシニス}速証^{セヨ}、以^テ決^{セヨ}衆^ノ、
空中^ニ、諸天接^ト縷丸^ヲ而請^{テク}曰、「
「方証^{ニシテ}」^ヲ、^{ニシテ}「仏果^ヲ」^ヲ、^{ニシテ}次補^{ニタラン}、^{ニシテ}慈氏^ヲ、^{ニシテ}三^ヲ、
界^ニ特尊[、]、^{ニシテ}四生^ヲ、^{ニシテ}攸^ヲ、^{ニシテ}頗^ヲ、^{ニシテ}如何^ヲ、^{ニシテ}於^{ニシテ}是^ヲ、^{ニシテ}世友^ヲ、^{ニシテ}即^{ナク}、^{ニシテ}擲^{ナク}、^{ニシテ}縷丸^ヲ、^{ニシテ}疑^ヲ。」
此欲^{スル}、^{ニシテ}証^{セント}、^{ニシテ}小果^ヲ。時諸羅漢^ヲ、^{ニシテ}謝咎^ヲ、^{ニシテ}推^レ德^ヲ、^{ニシテ}見^{ニシテ}是^ヲ、^{ニシテ}事^ヲ、^{ニシテ}已^ヲ、^{ニシテ}。

請為_テ上座_二、凡_一有_二疑議_一、成_レ
 取_ル決_ヲ焉。是_{コニ}五百_ノ賢聖、先_ツ
 造_テ二十_ノ頌_ヲ鄖_波第_一鑠_ヲ論_一

「旧曰優波提／舍論訛也」、积_ス素_ヲ咀_ス藏_ヲ
 「旧曰修多／羅藏訛也」、次_{ニテ}造_テ二十_ノ頌_ヲ毘_ナ奈_ヲ
 耶毘_(婆)沙論_ヲ、积_ス毘_ナ奈_ヲ耶藏_ヲ

摩毘婆沙論_ヲ、积_ス阿毘達磨_ヲ

藏_ヲ、_一或曰阿毘_ナ、曇藏_ヲ略也_也。凡_ニ三十_ノ萬_ヲ頌_六

諸_ヲ千_ノ古_ニ、莫_レ不_ニ、窮_メ其_ノ枝葉_ヲ、_一懸_{カタリ}

究_メ其_ノ淺_ヲ深_ヲ、大_ヲ義_ヲ重_テ時_ヲ、微_ヲ

言_ヒ再_ヘ順_テ、廣_ヘ宣_ヘ流_ヘ布_テ、後_ニ進_{カフル}
 賴_ム焉_。迦_ニ膩_ム色_ヲ迦_ニ王_ヲ遂_ニ以_ニ赤_ヲ
 銅_ヲ一_ニ為_テ鑄_ム、鑄_ム二_ニ写_テ論_ヲ文_一、石_ノ函_ニハ_コニ

緘_{ツミシテ}封_{タテ}、建_{タテ}窣堵波_ヲ、藏_ヲサメ_テ於_ニ
 其中_ニ、命_{ニシテ}二_ニ藥叉_ニ神_ヲ周_ニ衛_{セシメテ}其_ノ
 国_ヲ、不_レ令_{シテ}異_ヲ學_テ持_テ此_ノ論_ヲ出_セ。欲_{セバ}七_ハ二_ニ

求_{セント}學_テ、就_ニ中_ニ受_{ケヨト}業_ヲ。於_レ是_テ

功_ニ既_リ成_テ畢_ム、還_ニ軍_ヲ軍_本都_ヲ出_テ此_ニ

國_ヲ西_門ノ_外、東_面而_跪、復_テ

以_テ此_ノ國_ヲ、總_ス施_テ二_ニ僧_ヲ徒_ヲ。迦_ニ膩_ム色_ヲ

迦_ニ王_ヲ既_ニ死_テ之_後、訖_テ利_多

種_ヲ復_テ自_レ稱_{シテ}王_ヲ、斥_テ逐_テ僧_ヲ徒_ヲ、_一

毀_ス壞_ム仏_法。

(12) 四之二

世親菩薩造論事

無著世親等兄弟事

世親破小執帰大乘事

枯葉裝十五・三纏×十一・五纏【二七三函〇〇一号十二】

阿踰陀國周五千余里○リ

國ノ大

都城周二十余里○リ

穀稼豐盛、ニニシテ

花果繁茂○クモシ

氣序和暢、ニシテ

風俗善

順、ナリ好當福、チノヲ

勤學芸○

伽藍百有

余所、僧徒三千余人、アリ

大乘小

乘、兼攻、ネヲサメテ

習學ス

天祠十所、異

道寡少○シ

大城中有ニ故ルキ

伽藍、

是伐蘇畔度菩薩、
譯曰天親、訛謬、
數十年中、於此製作大

小乘諸異論。其側故基、是世

親菩薩為諸國王、四方俊彥、沙門、婆羅門等、講義說法堂也。

城北四五里、臨二碗伽河岸、一大伽藍、中、有二窣堵波、高三百余尺、無憂

ノ之所建也、是如來為天人衆

於此三月說諸妙法、其側窣堵

波、過去、四仏坐及經行遺跡之

所、伽藍西四五里、有二如來髮爪、

窣堵波一

髮爪窣堵波北、伽藍余跡、アリシ

經部室利遷多、
(唐言勝受)論師、於レ

此製二造經部毘婆沙論一。

城西南五六里、大菴沒羅林、

中有ニ故ルキ、是阿僧伽、
(唐言無著)

菩薩請益導^{ヒツク}レ 凡^ヲ之^ヲ處^{ナリ}○ 無著菩薩
 夜^{ハル}昇^テ二天宮^{ニテ}一於^テ慈氏菩薩所^{ノミニテ}一受^テ瑜^ヲ
 伽師地論、莊嚴大乘經論、中辺
 分別論等、尽^{ハシニ}為^テ二大衆^ノ講宣^{シタマヘリ}妙^{アリ}
 理^ヲ。菴^{アシ}沒^ル羅^ラ林^ノ西北百余步^ニ、有^リり
 如來髮^ヲ爪^ヲ窣^ツ堵^ツ波^ヲ。其側故基^{アリ}
 見^シ無著菩薩^ヲ處^{ナリ}。無著菩薩^ハ健^{アリ}
 駄^シ遷^シ國^ノ人^ヲ也[。] 仏^ヲ去^テ世^ヲ後^一
 千年中^ニ、誕^シ靈利見^ヲ、承^テ風^ヲ
 悟^ル道^ヲ、從^テ二^ヲ弥^ミ沙^ヲ塞^ス部^ヲ一^ヲ出^テ家^{修^ム}
 學^ス、頃^{シハラクアテ}之^ヲ迴^{カヘテス}信^テ二^ヲ大^ヲ乘^ム。其^ノ弟^世
 是^レ世親菩薩^{從^テ二^ヲ睹^シ史^ヲ多^ニ天下^ヲ}

宿心^ヲ一^ス當^テ相^シ報^{語^ヲ}、以^テ知^{ラシム}至^ル。其^ノ
 賢哲每^ニ相^テ謂^曰、「凡^{ソシテ}修^ム二^ヲ行業^ヲ、
 願観^{カミント}二^ヲ慈氏^ヲ。若^ニ先^カ捨^ス壽^ヲ、得^レ遂^クコトヲ^ヲ
 不^レ報^セ。世親菩薩尋^テ亦捨^レ壽^ヲ、時^ヲ
 經^{ルマテ}一^ヲ六月^ヲ、亦無^シ報^{命^ヲ}。時^ニ諸^々異^ニ
 學咸^ニ皆^{セウシテ}譏^シ誚^{モヘラク}、以^テ爲^ス世親菩薩^ヲ
 及^ヒ師子覺^ヲ、流^シ転^シ惡^ヲ趣^ム、遂^テ
 無^シ靈鑑^ヲ。其後無著菩薩於^ニ夜^ニ
 初^ニ分^ニ一^ヲ方^ヲ爲^ム門^人、教^ス授^テ定^ム法^ヲ、^ヲ燈^ヲ
 光^ヲ忽^ク翳^シ、空中^ニ大^ニ明^ニ有^リ。有^二一^ノ天^ヲ
 仙^ヲ、乘^テ虛^ヲ下^リ降^ル、即^テ進^ス階^庭、^ヲ敬^ス
 礼^ヲ無^シ著^ス。無著^ノ曰^ク、「爾^來何^暮。^ヲカツル^ヲ
 今^名何^ト謂^フ。」對^テ曰^ク、「從^レ此^ヲ捨^ス壽^ヲ、^ヲ命^ヲ、^ヲ」
 著^ス、弟子^ヲ陀^ヲ僧^ヲ、^ヲ〈唐^ヲ言^ス師^ヲ、^ヲ子^ヲ覺^ス〉^ヲ

往^ニ睹史多天、慈氏^ノ内衆^ニ華^ノ中生^ス。蓮華^ニ纔開^ク、慈氏^{讚^{メテ}}曰^ク、「善來^ニ廣慧^ス。善來^ニ廣慧^ス」。旋繞^ニ纔周^テ即來^テ報命^ス。無著菩薩^ノ曰^ク、「師子覺者^ハ、今何所^ニ在^ル」。

外衆^中耽著^{欲樂}、無暇^{シトイタマ}相顧^{ルニ}、詎^{タレカ}能來^{クリセん}報^ス。無著菩薩^ノ曰^ク、「斯^ト事已^ミ矣、慈氏^ノ何相^ニ演^シ說^フ何^ヲ」。慈氏^{相好}、言^{ハセ}莫^{ケレ}能宣^{ルコト}演^ス。

說妙法^ヲ、義不^レ異此^モ。然菩薩妙音、清暢^ニ暢和雅^ニ、聞者忘^レ倦^レ、受^ク者無厭^{コト}。

余里^{ニシテ}、至^ル故伽藍^ニ、北臨^ニ宛伽河^ニ、

中有^ニ塼堵波^{カハラノ}、高百余尺^{サナリ}。世親菩薩初發^{メシ}、大乘心^一、處^リ世親菩薩自^ニ北印度^ニ、至^ル於此^ニ也。時無著菩薩命^{シテ}其門人^ニ、令^ム往^テ迎候^{カハ}、至^テ此伽藍^ニ、遇而會見^ス。無著弟子止^ニ戶牖外^ニ、夜分之^ヲ。後^ニ誦十地經^ヲ、世親聞已^テ、感悟^{シテ}追悔^ス、甚深妙法^ヲ、昔所未聞^カ、誹謗^ノ之愆^{トカ}、源發^{ヲコレリ}、於舌^{ヨリ}、舌為^ス罪本^ト、

今宜^ク除^{キタツ}斷[。]即執^テ鉛刀^ヲ、將自^ミ斷^レ舌^ヲ。乃見^ニ無著^ノ住立^{シテ}、告曰^ク、「夫^レ大乘教者[、]至真之理^{ナリ}也。諸仏所讚^ス、衆聖攸^レ宗^ノ。吾欲^レ誨^レ汝[、]爾^ノ今自悟^{ミレリ}、悟其時^{ナリ}矣、何善^{シカニ}如^レ之[。]諸仏聖教^ハ、斷^レ舌^ヲ非悔^ル。

(13)

西記第五

四之三

為邪鬼殺戮捨命願福事
戒日大日五年積福一口施之事
人間外道修苦行捨命事

昔以舌毀大乘、今以舌讚（大乘）。
過自新、猶為善矣。杜口絕言、
見世親承命、遂不斬舌。且詣
無著、諮受大乘。於是研精覃
思、製大乘論、凡百余部、並盛
宣行。從此東行三百余里、
渡彌伽河北、至阿邪穆法國、
（大）樹、枝葉扶疎、陰影
蒙密、有食人鬼依而
棲宅、故其左右多有一遺

昔以舌毀大乘、今以舌讚（大乘）。
過自新、猶為善矣。杜口絕言、
見世親承命、遂不斬舌。且詣
無著、諮受大乘。於是研精覃
思、製大乘論、凡百余部、並盛
宣行。從此東行三百余里、
渡彌伽河北、至阿邪穆法國、
（大）樹、枝葉扶疎、陰影
蒙密、有食人鬼依而
棲宅、故其左右多有一遺

補

粘葉装 十五・三糰×十一・三糰【二七三函〇〇一号十三】

城中有二天祠、營飾輪煥、
能於此祠捐捨一錢、功蹟

靈異多端。依其典籍、此

（處）是衆生植福德之勝地也。

他所惠施千金。復能輕

生祠中斷命、受天福樂、
悠（永）無窮。天祠堂前有一

骸。若人至此祠中、無不輕

骸。若人至此祠中、無不輕

捨身命。既忱邪說、又為
 (神)誘、自古迄今、習謬無
 替近有婆羅門、族姓子
 也、闊達多智、明敏高

才來至祠中、謂衆人曰、
 「夫曲俗鄙志、難以道誘。
 (吾)方同事、然後攝化」。亦
 既登臨、俯謂友曰、「吾有
 死矣。昔謂詭妄、今驗
 真實。天仙伎樂、依空
 接引、當從勝境、捐此鄙
 (形)。尋欲投人身、自取
 親友諫諭、其志不移。遂
 布(衣)服遍周樹下、及其自投、

得全驗命。久而醒曰、「唯
 見空中諸天召命、斯乃
 (邪)神所引、非得二天樂也」。
 大城東、兩河交、廣十余
 里、土地爽塙、細沙弥漫。
 自古至今、諸王豪族、凡有
 捨施、莫不至止、周給不計、
 (号)大施場。今戒日王者、聿
 修前緒、篤述惠施、五年
 積財、一旦傾捨。於其
 施場、多聚珍貨。初第一
 日、置大仏像、衆寶莊
 (嚴)、即持上妙奇珍、而以
 奉施。次常住僧、次見前
 衆、次高才碩學、博物多

能^{ニス} 次外道学徒、隱淪肥遁^{ニシ}
 次^{ニクハ} 鰥^{ハコ} 独^{ドク}、貧窮乞人^{ニス}
 (備) 極^{ツツサニ} 珍玩^ヲ、窮^ム 諸上饌^ヲ。如^ク
 是節級、莫不^{シトスコト} 周施^{クセ}。府庫^一
 既傾^テ、服玩都尽^{テヌ}、髻中明珠、
 次外道学徒、隱淪肥遁^{ニシ}
 次^{ニクハ} 鰥^{ハコ} 独^{ドク}、貧窮乞人^{ニス}
 (備) 極^{ツツサニ} 珍玩^ヲ、窮^ム 諸上饌^ヲ。如^ク
 是節級、莫不^{シトスコト} 周施^{クセ}。府庫^一
 既傾^テ、服玩都尽^{テヌ}、髻中明珠、
 身諸瓔珞、次第施与^{シテ}、初^{ヨリ}
 無^シ 所悔^{ムル}。既捨施^{シテ}、称^{シテ} 曰^ク、「樂[」]
 (哉)。凡吾所有、已入^二 金剛堅^ニ
 固藏^一矣。從此之後、諸國^ノ
 王各獻^{シテ} 珍服^一、嘗不^レ 踤^レ

旬^ヲ、府庫充仞^{ミナミナス}。大施場東^ノ
 合流口^{ノホリニ}、日數百人自溺^{ハクミレテ} 而^レ
 (死)。彼俗以為願^{モヘラク} 求^{モハ} 生天^ヲ、當^ニ
 於此處^{テノニ}、絕粒自沈^{ヘリミム}、沐^浴 中^ニ
 流^ニ、罪垢消滅^ス。是以異國遠^テ

方^{ハシテ} 相趨^リ 萃止^ル、七日斷食^テ、然^テ
 後絕命^{ニツツ}。至^{ルマテ} 於山猿野鹿^ニ、群^ニ
 (遊) 水浜^一、或濯流而返^{ハテ}、或絕^レ
 食而死^ス。當^ニ 戒日王之大施^ニ
 也、有^テ 一獮猴^{ノリ} 居^リ 河之浜^ニ、獨^ニ

在^ニ 樹下^一、屏^レ 跡^ヲ 絶^レ 食[、] 経^テ 数日^ヲ
 後^ニ、自餓^{ヘテ} 而死^ス。故諸外道修^{スル}
 (苦) 行^ヲ 者^ハ、於^ニ 河中立^ニ、高柱^ヲ 日^ノ 將^ニ
 旦^{アケント} 也^ニ、便即^{ノホリ} 升^レ 之[。] 一手^ノ 一足[、] 執^テ 柱^ヲ
 柱端^ヲ 踣^{フム} (跋) 傍^{カタハラノニ} 棧^{クヒヲ} (杙)。
 一手^ノ 一足[、] 虛^{ソラニ} 徒數十^{アリ}、冀斯勤苦^{シテ}、出^ス
 離^{セシコトヲ} 生死^ヲ、或數十年未^タ

(14)

嘗ムカシヨリ懈息リヤスマ。徒レ此西南入二大ス行クコト。
 林中ノニ、惡獸野象、群ニ暴行ス。
 (旅ヲ一、非ハ多ニ徒党、難シ一、以テ經涉ヘヘリ一。)

(四之) 四了
 優填大日迦迦像事 今嵯峨迦迦也
 伏毒竜留景事
 護法破外道事

西記第五

粘葉装 十五・三糞×十一・五糞 【二七三函〇〇一号十四】

橋賞弥國〈旧曰拘睞弥國／中印度境〉
 〔見返し〕
 城内故宮中有大精舍、高サ六十余尺、有刻檀仏像、上ニ懸タリ石蓋ヲ、鄖陀衍那王〈唐ニハ言出愛トマヲ、ト王、訛ナリ也。之所作也。靈相間起、神光時照。諸國君王恃タシテ力欲レ、トモケント舉、雖シト多シ人衆、莫ク能スルコトニシテ轉移一、遂トマシテ因ム供養シテ、俱ニテ得タリト真ルハ、語ニ其源跡ヲ、即ナリ此像也。初メ如シヘリ來成ニ正覺ヲ已テ、上昇ミテ天宮ニ為シレ母說レ法、三月不レ還タマハ、其王思慕シテ願テ圖セント形ヲ像一、乃テ請テ尊者沒特伽羅子ヲ、以テ神通力ヲ、接シテ工人ヲ、天上宮ニ、親觀テ

妙相^ヲ、^{エリ}雕^二刻^一、梅檀^ヲ。如來自^二天宮^一、
還^玉也^{トキニ}、刻檀^ノ像起^{タテ}迎^{ヘタマツリ}玉^ヲ、
尊慰^{キシテ}曰^ク、「教化^{セリヤ}勞^ヤ耶。開^{シ玉ヲ}導^エ末^世尊^ヲ。」
世^ヲ一^ニ、寔此^ニ為異^{スナリト}。精舍^東百余步、
有^リ過去^ニ四仏坐及經行遺跡[。]

之所^一、其側^ニ不^レ遠^カ有^リ如來井[。]
毀^{レタリ}及浴室^ノ。井猶充^{アツ}汲^{クムニ}、室^ハ已頽^{ニカタフキ}

城内東南隅有^リ故宅余

趾^一、是^レ具史羅^{〈旧云瞿師/羅訛也〉}長者[。]

故宅^也、中^ニ有^二仏精舍及髮[。]
爪窣堵波[。]復有^二故基[、]如來

浴室^{ナリ}也。

城^ノ東南不^遠、有^二故伽藍[、]具[。]
史羅長者^{旧園也}。中^ニ有^二

窣堵波[、]無憂王^{之所}建立[、]、
高^ニ二百^{メタ}余尺[、]如來於^レ此數年[。]
說^玉法^ヲ。其側^ニ則有^二過去^ニ四仏座[。]

及經行遺跡^{之所}、復有^二

如來髮爪窣堵波[。]

伽藍東南重閣[、]上有^二故博[。]

室[、]世親菩薩嘗住此中[、]唯[。]
作^テ識論[、]破^二斥^シ小乘[、]難^ス諸[。]
外道^ヲ。

伽藍東^ノ菴^{カタ}沒羅林^ノ中[、]有^二

故基[、]是^レ無著菩薩於此作^二顯[。]
揚聖教論[。]

城西南八九里^{ハカリニ}毒竜石窟[、]
昔者如來伏^{シテ}此毒竜^ヲ於^レ中^ニ
留^{メ玉ヲ}影[。]雖^ニ則^ヘ伝記[、]今無^レ所[。]

見ル。其側有密堵波、無憂王之所建也、高二百余尺。傍有如來經行遺跡及髮爪密堵波、病苦之徒、求願多愈。釈迦法盡、此國最後故上自君王、下及衆庶、入此國境、自然感傷、莫不飲泣悲歎而帰。竜窟東(北)此大林中、行七百有布羅城、周十余里、居人富樂。城傍有故伽藍、唯余余里、渡宛伽河北、至迦奢。

基趾、是昔護法菩薩伏外道、此國先王悅於邪說、欲毀佛法、崇敬外道。

外道衆中召一論師、聰敏高才明達幽微者、作為邪書千頌、凡三万二千言、非毀佛法、扶正本宗。於是召集僧衆、令相摧論。外道有レ勝、当毀佛法、衆僧無負、斷舌以謝。是時僧徒懼有過負、集而議曰、

「慧日已沈、法橋將毀、王党」

外道、其可敵乎。事勢若斯、計將安出。衆咸默然、無豎議者。護法菩薩、年在幼稚、弁慧多聞、風範弘遠、在大衆中揚言讚曰、

「遇雖不敏、請陳其略、誠ニ

(15)

宜以我疾 ヨクテヨスミヤカニ 応王命 スコシ 高論得 ラハ
 勝、斯靈祐 コトヲノタケナリ 也。徵議墮負 セハ 乃稚
 齒也。然則進退有レ辭、法僧
 無咎 ケン。僕曰、「允トニカナヘリ」。如ク
 応王命、即昇 ル 論席。外道乃
 提頓綱々、抑揚辭義、誦シテノ
 其言而嘆曰、「吾得勝矣。」
 將覆逆而誦一耶。為亂辭
 而誦二耶。外道撫然而謂曰、
 「子無自高也。能領語尽、此
 則為勝。順受其文、後积其
 (後欠)

阿難為魔王一被恼不請

西域伝第六 久住世事

阿難於林中夢於如來一事

粘葉裝 十五・四糢×十一・五糢 [二七三函〇〇一号十五]

伽藍北三里 ハカリニ 有二窣堵波、是如來將
 往拘尸那國、入二般涅槃 (槃ニシテラ)。人与非人隨從世
 尊、至レ此佇立。次西北不遠、有二窣
 塵波、是佇於此、最後觀二吠舍釐
 城。其南不遠、有二精舍、前建二窣堵
 波、是庵沒羅女園、持以施レ仏。
 没羅園側有二窣堵波、是如來

告二涅槃^ヲ処^{ナリ} 仏昔在^{シテ}此^ニ告^テ阿難^一
 曰、「其得^{レル}四神足者、能住^レ寿^{一劫}。如來今者、當^ニ壽^{幾何}」。如是再

三、阿難不^レ対^ヘ、天魔迷惑^{スル}故^{ナリ}也。阿難
 徒^レ坐^ニ而起^テ、林中宴^ム。時魔來^テ請^レ
 仏曰、「如來在世、教化已久。蒙^レ濟^二流^一、
 數如^シ塵沙。寂滅之樂、今其時^矣」。
 世尊以少土^ヲ置^ニ爪上^ニ、而告魔曰、「地」

土多^シ耶。爪土多^シ耶」。對^ク曰、「地土多^也」。仏
 言^ク、「所^レ度^{スル}者、如爪上土。未^タ度^{セハ}者、如^ニ大
 地土^一。却^テ後^ニ三月、吾當涅槃^一」。魔聞
 歡喜^{シテ}而退^ク。阿難林中^ニ忽^ニ感^ム異夢^ヲ
 来白^レ仏言^ク、「我在林間、夢見大樹^ノ」。

枝葉茂盛^{ニシテ}、蔭影蒙密^{ヲナルヲ}、驚風忽

期^一。斯^ノ夢是^{ナリ}也。」
 起^テ、摧散^{シテ}無^{シト}リ。將非^{ニスヤ}世尊欲^{スルニ}入^シ寂
 滅^ニ。我心懷^ク懼^ヲ、故^ニ來^テ請問^フ。仏告^テ阿
 難^ニ、「吾先告汝、々為^ニ魔蔽^{ノヲハレテ}不^ニ時^ハ請^一。
 留^{ルコトヲ}魔王勸^{メテ}我、早^ク入^二涅槃^一。已^ニ許^シ之^ニ。

(16)

毘舍利國 弥勒菩薩受授記事

釈迦授記處事

昔提婆与仏成鹿王〈仏為鹿王為孕四

鹿施命事〉

昔仏修菩薩行時為兔投身施食

月兔事

記第七抄

賭貨羅國僧 〈捨坐禪／拜聖跡事〉

接提所事

阿難所惱天魔不請仏經壽事

千子飲母乳留戰事

七百賢聖初制毘尼事

阿難分身於恒河涅槃事

粘葉裝 十六・一糰×十二・七糰【二七三函〇〇一号十六】

三仏經行側窣堵波^{ヨリ}、是梅

咀麗耶〈唐言慈即姓也/旧曰弥勒訛也〉菩

(薩)受^シ成仏記^ヲ處^オ昔者如來

在^ニ王金城鷲峰山^一告^{ハク}諸苾

芻^ニ「當來之世、此瞻部洲、土

地平正^{ニシテ}人壽八萬歲、有^{ニシテ}婆

羅門子慈氏^{ト云}者^ノ身真金色、^{ニシテ}

光明照朗、當捨家、成^{シテ}正覺^ヲ

廣^ク為^ニ衆生^ノ、三會說^レ法^ヲ。其濟

(度)者^ハ皆我遺法植^ル福衆生^{ナリ}

也。其於^テ三寶^ニ、深敬^一心^一、在

家出家、持戒犯戒、皆蒙化^テ

導^ヲ、証^{シテ}果解脫^{セシム}三會說法之

中^ニ、度^{シテ}我遺法之徒^ヲ、然後乃

(化)同緣善友^ヲ。是時慈氏菩

薩聞^テ三仏此說、從^レ座起、白^{シテ}仏

言、「願我作^{ハラン}彼慈氏世尊^ト。如

來告曰、「如^シ汝所言、當^ニ此^ス」

果^ヲ。如^{キハ}上所說、皆汝教化之

儀^{ナリ}也。

慈氏菩薩受記^ニ、有^ニ窣堵

(波)、是糰迦菩薩受記之處^{ナリ}

賢劫中人壽二萬歲、迦葉

波^ヲ出現^{シテ}於世、転妙法輪^ヲ

開^ス化^ヲ、^一授^テ護^ム明菩薩^ニ記^テ

曰ク、「是菩薩ハ、於当來世、衆生」

(寿) 命百歲、之時、當得成仏、スルコトヲ

号ス、釈迦牟尼ト」。

導俗側不レ遠、大林中ニ有ニ宰

堵波、是如來昔与提婆達

多ニ俱為鹿王ト、事之處。昔於ニ

此處大林之中、有二両群鹿、各

五百余ヨリ時此國王畋遊原

(沢)、菩薩鹿王、前請レ王曰、「大

王校ニ獵中原、縱燎飛矢。凡

我徒屬、命尽ニ茲晨不レ日腐

臭、無所充レ膳。願欲次差日

輸(延)、旦夕ノ命。王善シテノヲ

輸二鹿。王有二割レ鮮之膳、

駕而返。兩群之鹿、更次輸レ

命。提婆群中ニ有懷孕鹿。次
當就レ死、白其主曰、「身雖応レ

死、子未次也」。

鹿王怒曰、「誰カ不寶命」。

雌鹿歎曰、「吾王不仁、死無日矣」。

乃告急菩薩鹿王、鹿王曰、「悲哉。慈母之

心、恩及未形。吾今代汝」。

遂至王門、道路之人、伝レ声唱

曰、「彼大鹿王、今來入邑」。

都人士庶、莫レ不二馳觀。王之聞

(也)、以為レ不レ識。門者白レ至、

乃信然シテ、曰、「鹿王何遽來耶」。

鹿曰、「有雌鹿當レ死、胎子未

産。心不能忍、敢以レ身代」。

王

聞歎曰、「我人身鹿也、爾鹿身人也。於是悉放諸鹿、不復輸命。即以其林為諸鹿是如來修菩薩行時、燒身烈土池西、有三獸窣堵波、是如來修菩薩行時、燒身烈土池西、有三獸窣堵波、

（釈）欲驗修菩薩行時天帝應化為一老夫、謂三獸曰、「三子善安隱乎。無驚懼。」

耶。」曰、「涉豐草、遊茂林、異類

之處。」劫初時、於此林野、有

狐兔猿、異類相悅。時天帝

（遊）躍左右。老夫謂曰、「以

觀之、爾曹未和。猿狐同志、各能役心。唯兔空還、獨無二

相饋。以レ此言之、誠可レ知也。」

（將）燶。兔曰、「仁者、我身卑劣、

所求難遂。敢以微躬、充此一餐」。辭畢入火、尋即致死。

同歎、既安且樂。」老夫曰、「聞

二三子情厚意密、忘其老

弊、故此遠尋。今正飢乏、何

聞歎曰、「我人身鹿也、爾鹿身人也。於是悉放諸鹿、不復輸命。即以其林為諸鹿是如來修菩薩行時、燒身烈土池西、有三獸窣堵波、

（釈）欲驗修菩薩行時天帝應化為一老夫、謂三獸曰、「三子善安隱乎。無驚懼。」

耶。」曰、「涉豐草、遊茂林、異類

之處。」劫初時、於此林野、有

狐兔猿、異類相悅。時天帝

（遊）躍左右。老夫謂曰、「以

觀之、爾曹未和。猿狐同志、各能役心。唯兔空還、獨無二

相饋。以レ此言之、誠可レ知也。」

（將）燶。兔曰、「仁者、我身卑劣、

所求難遂。敢以微躬、充此一餐」。辭畢入火、尋即致死。

（以）饋食。」曰、「幸少留此、我躬

馳訪。於是同レ心虛レ已、分路當求。狐沿水浜、銜一鮮鯉。

猿於林樹、採異華菓。俱來至止、同進老夫。唯兔空還、

（遊）躍左右。老夫謂曰、「以

觀之、爾曹未和。猿狐同志、各能役心。唯兔空還、獨無二

相饋。以レ此言之、誠可レ知也。」

（將）燶。兔曰、「仁者、我身卑劣、

所求難遂。敢以微躬、充此一餐」。辭畢入火、尋即致死。

是時老夫復_テ帝_ノ身_一除_キ火_{モエクヒラ}レ燼_{スルコトヤ}、傷歎_{シテ}良久_{シテ}謂_{シテ}二_ノ狐猿_一曰_ク、
 収_チレ骸_ヲ、傷歎_{シテ}良久_{シテ}謂_{シテ}二_ノ狐猿_一曰_ク、
 「(二) 何_ソ至_レ此_ニ。吾_レ感_{シテ}其_心、不_レ泯_{シテ}其_跡。寄_{シテ}二_ノ月輪_一、伝_{シテ}乎_レ後_世」。
 故_ニ彼_{レミナ}咸_シ言_ク、月中之兔、自_レ斯_{シテ}而_有。後_人於_レ此_ニ建_{シテ}窣堵波_一。

昔_シ大雪山北_ノ賀_レ邏_ニ國_一、有_二樂_ヲ學_{シテ}沙門_一、二_三同_ク志_ヲ、禮_{シテ}誦_ノ、
 余閑_ニ、每_ニ相_レ謂_ク曰_ク、「妙理幽玄_{ナリ}」。
 (非) 二_三言_シ談_{シテ}所_レ究_ム。聖_ヲ跡_ヲ昭_シ著_{ナリ}、可_シ。

同遊_ク。既_至印度_一、寓_ク諸伽藍_一。輕_{シテ}其_レ邊鄙_ヲ、莫_シ之_レ見_テ舍_ム。外_レ迫_ニ風_ノ、露_ニ、內_ニ累_ム口腹_ヲ。顏色憔悴_{シテ}。

形容枯槁_{ナリ}。時此國王、出遊_テ、近郊_ニ見_{シテ}諸客僧_ヲ、怪而問曰_ク、「何方乞士_{シテ}、何所_レ因來_ル。耳既_ニ

不_レ穿_タ、衣_ノ又_レ垢弊_{ナリ}」。沙門_{シテ}對曰_ク、「我_レ賀_レ邏_ニ國人_一也。恭_{シテ}承_ク遺_ヲ、
 教_ク高蹈_ヲ、俗塵_ヲ率_{シテ}其_{シテ}同好_ヲ、觀_ク」。

(礼) 聖_ヲ跡_ヲ概_{ナケタクハ}以_ク薄福_ヲ、衆所_ノ棄_ム。印度沙門_一、莫_レ顧_{ルコト}、羈旅_ヲ、欲_レ還_シ本土_一、巡_ク禮_ヲ。雖_レ迫_リ勤_ム。

「苦_シ、心_遂後_シ已_ム」。王_{シテ}聞_ク其_ノ說_ヲ、用_{シテ}增_ス悲感_ヲ。即_{シテ}斯_{シテ}勝地_ヲ、建立伽藍_ヲ。白_{シテ}題_{シテ}書_ク、為_{シテ}之_ヲ制_ム。曰_ク、「我_レ惟_{シテ}尊_{トクシテ}居_セ世_上、貴_{シテ}極_ム人_中、斯_{シテ}皆_シ三寶_ノ之_ヲ靈祐_{ナリ}也。既_{シテ}為_{シテ}人_ト、受_ク佛付囑_ヲ。凡_ソ厥_レ染_ム衣_ヲ、吾_レ

当惠濟。建此伽藍、式招羈
旅。自レ今已來、諸穿耳僧、我カ
(此)伽藍、不得止舍。因_二其事
(跡)故以名。

仏昔在レ此告_二阿難曰、「其得_二
四神足_二者、能住_レ寿一劫。如

來今者、當_二寿幾何。如_レ是再
三、阿難不_レ對_レ天魔迷惑故
(也)。阿難從_レ坐而起、林中宴
默_ス。時魔來請仏曰、「如來在
世、教化已久。蒙_ノ濟_ヲ流転、數

(度)者、如爪上土。未度者、如
大地土。却後三月、吾當涅槃。
魔聞歡喜而退。阿難林

中、忽感異夢、來白仏言、「我
在_二林間、夢見大樹、枝葉茂
(盛)、蔭影蒙密。驚風忽起、摧
散無_レ余。將非世尊、欲_入寂
滅_ニ。我心懷懼、故來請問」。仏
告_レ阿難、「吾先告汝。汝為_レ魔
蔽_ヲ、不_レ時請_ハ留_ル。魔王勸_{メテ}我、早_ク
入_二涅槃。已許_{ニシテ}之期、(斯)夢是_{ナリ}也」。
告涅槃期側不_レ遠_有、率堵_ヲ
(波)、千子見_二父母處_ヲ也。昔有_二
仙人、隱_ニ居巖谷。仲春之月、
鼓灌_ス清流、牝鹿隨飲、感_{シテ}生_二

女子一姿貌過レ人、唯脚似タリニ鹿。
 仙人見已、收メテ而養焉。其後
 (命シテ) 令ミ求レ火、至ニ余仙廬。足所
 履地跡皆有レ花。彼仙見已、
 深以奇之。令シテ其繞レ廬、方乃
 得レ火。鹿女依レ命、得レ火而還。
 時梵豫王、畋遊見レ花。尋レ跡ヲ
 以求、悅其奇怪、同載而返。
 相師占言、当生千子。余婦
 (聞) 之、莫レ不二。図計。日月既滿、
 生二一蓮花。花有二千葉、坐ニ
 子。余婦誣罔、咸称不祥。投テ
 城、東南行十四五里、至二大
 窪堵波。是七百賢聖重結
 (集) 汲。仏涅槃後百一十年、

吠舍釐城有諸苾芻、遠離シテ
 仏法、謬行ニ戒律。時長老耶
 舍陀、住ニ橋薩羅國。長老三
 菩伽、住ニ秣毘羅國。長老釐
 波多、住ニ韓若國。長老沙羅、
 住吠舍釐國。長老富闍蘇
 (弥) 羅、住ニ娑羅梨弗國。諸大
 羅漢心得自在。持ニ三藏、得ニ
 三明。有ニ大名稱、衆所知識、
 皆是尊者阿難弟子。時耶
 舍陀、遣レ使告諸賢聖、皆可シ
 (集) 二吠舍釐城。猶少一人、未タ
 滿二七百。是時富闍蘇弥羅、
 以二天眼、見諸大賢聖集議
 法事。運神足、至ニ法会。時三

菩薩、於二大衆中、右袒、長跪。
揚言曰、「衆無レ譁、^{スシビコトツ、シメ}欽^{ヲモチ}哉、念哉。」

昔シ大聖法王、善權寂滅、^{玉ヘリ}歲

(月)雖レ淹、言教尚在。吠舍釐
城^ニ懈怠^ハ苾芻、謬^ヲ於戒律^ニ、有^テ
十事出^ハ違二十力教。今諸賢

者、深明^{ニセリ}持犯、俱承^{ニテ}二大德阿

難^ノ指誨^ヲ、念報^ヲ、^テ於戒律^ニ、有^テ

(旨^ヲ)。時諸大衆、莫不^ニ悲感^ニ、^セ即

召^ニ集^{シテ}諸苾芻^ヲ、依^ニ毘奈耶^ヲ、^テ詒
責制止^{シテ}、削^ニ除謬^ヲ、宣^ニ明^{ニス}聖
教^ヲ。

湿吠多補羅伽藍東南行^{タコト}
三十余里、宛伽河南北岸、

各有^ハ窣堵波^一、是尊者阿

(難)陀分^ノ身^ヲ與^ニ二國^ニ處^{ナリ}阿難
陀者、如來之徒父弟也。多聞總持、博物強識^ヲ、^{ナリ}伊^{トコ}ナリ^テ、^テ佛去^レ世^ヲ

後、繼^テ二大迦葉^ヲ、住持^{シテ}正法^ヲ、導^キ

進學人^ヲ、在^ニ摩揭陀國^ニ、於林

(中)經行、見^ル沙弥^ヲ、諷誦^{シテ}、^テ佛

經^ヲ、章句錯謬^シ、文字紛亂^{スルコト}、^テ阿

難^キ聞^已、^テ感慕增^レ懷^ス、^テ徐^ニ詣^テ其

所、^テ提撕指授。沙弥笑^テ曰、「大

德耄^ハ矣、所^レ言謬^矣。我師高^{カハ}
明^{ニシテ}春秋鼎^{ノコトクニ}盛^{ナリ}、親承^ニ示誨^ヲ、誠^ニ

無^{ケン}所^レ誤^ル。阿難默然^{トシテ}、^テ退而歎^テ

(曰)、「我年雖^レ邁^{タケタリ}、^テ為諸衆生^ヲ、欲^レ三

久住^レ世^ヲ、住持^{セント}正法^ヲ。然衆生^ヲ、欲^レモ
垢重^{クシテ}、難以^{シテ}誨語^{ヘリ}。久留^{クレトモ}無^{ケン}利、

可シ速滅度。於レ是去摩揭陀国、
趣ク吠金釐城。渡二死河、泛二舟ヲ
(中)流。時摩揭陀王、聞二阿難
去、情深恋レ徳、即嚴二戎駕、疾ニ
馳セ追請。数百千衆、嘗二軍南
岸。舍釐王、聞阿難來、悲喜
盈レ心、亦治二軍旅、奔馳シテ迎候。
数百千衆、屯集二北岸。両軍
相對テ、旌旗翳レ日。阿難恐ニ闘リノ
(其)兵、更相殺害。從二舟中一起、
上昇虚空。示現神変、即入二
寂滅。化レ火焚レ骸、骸又中析、
一墮南岸、一墮北岸。於是
二王、各得一分。拳レ軍号慟、
(俱)還テ本国。起テ窣堵波、而修ム
一墮南岸、一墮北岸。於是

〔付記〕貴重な資料の翻刻をご許可下さった神奈川県立金沢文庫に
対し、心から御礼を申し上げる。また翻刻の際、ご指導を惜しま
れなかつた黒田彰先生に感謝を申し上げる。本稿は日本学術振興
会科学研究費助成事業若手研究〔課題番号24K15971〕の一環で
ある。

(ほ こうえん・大阪大学招へい研究員)